



みなさんは、平和を願う気持ちをどのように伝えていきますか。中国新聞ジュニアライターは、こ

しも広島国際文化財団が協賛する「ヒロシマ・ナガサキ ZERO PROJECT（ゼロプロジェクト）」に参加しました。

1946年に被爆地のルポ「ヒロシマ」を発表し、原爆被害を世界に伝えた故ジョン・ハーシーの孫で、米国で活動するアーティストのキャン・ハーシー（41）たちが代表を務めるNPO法人「Ifuture」が昨年から呼び掛け、アートを中心に平和を発信します。

今回は広島市中区の旧日本銀行広島支店と、浄土宗妙慶院でそれぞれあったワークショップに参加。被爆樹木の気持ちを想像して言葉を考えたり、平和への願いをデザインにするTシャツを作ったりしました。さまざまな方法で平和を発信することを学びました。

〈ピース・シーズ〉

平和や命の大切さをいろんな視点から捉え、広げていく「種」が「ピース・シーズ」です。世界中に笑顔の花をたくさん咲かせるためにジュニアライターの中学生、高校生がテーマを考え、取材し、執筆しています。

アートで平和発信 II

第61号

メッセージTシャツ



完成したオリジナルのTシャツを着るジュニアライター

いろんな表現に出会う



参加した学生と一緒に、Tシャツに自分のメッセージをプリント

妙慶院というお寺で6日、近藤敏子さんの父の思い出を語るラジオ番組を基にした映像作品を見ました。そこにはジュニアライターの16人が参加。平和のメッセージを込めたTシャツ作りにも取り組まれました。

まず米国の原爆の惨状を伝えた故谷本清牧師について学びました。原爆孤児の精神養育運動や原爆少女の渡米治療に力を注いだヒロシマの被爆者です。長女の下絵作りでは、白い紙に黒いペンで描く「World from Hiroshima」の言葉で画像を読み取り、谷本さん親子が努力したように原爆が落とされた広島こそ、平和を実現する先駆けにならないといけない。そんな願いを込め、赤や青などのインクを最後に、約20人の参加者全員が自分の言葉で作品に仕上げました。そして、下絵の「二十色」の注文が必要で、希望者が多い場合は抽選になります。お待ちしています。（高2 藤井志穂）

ヒロシマ感じて伝える

被爆樹木の映像作品

触って書いた詩 重ねる



幹に触れたり葉を観察したりして被爆樹木の思いを想像しました



デジタルアートの前で自分の作った詩を発表するジュニアライター

旧日銀広島支店で7日にあったワークショップには、ジュニアライター7人が参加しました。「ゼロプロジェクト」の大きなテーマが「触る」。被爆樹木を観察し、木の根元に座り、被爆樹木はどんなことを思っているんだろう、ということを感じて、被爆樹木を背景に、僕たちが作った詩が一つずつ映し出されます。一言一言が心に刻まれるほど、平和への強い思いを伝えていくように感じました。僕たちは燃え盛る炎に焼かれる家族を嘆く詩や、あの日の思い出を語り、未来へ向かう詩などを作りました。最後、被爆樹木の映像に詩を重ね合わせたデジタルアートができました。（高2 川岸言統）

高2 川岸言統

話すことも動くこともあの日苦しむアナタに手を差しのべることもできず、くさりゆく何もできない私だけど私はここにいる二度とくり返させるものか

高1 川岸言織

私の人生いろんなことがあったけれど起こった真実は変わらない変わることなどありえない伝えたいのにできないことがとても悔しい

高1 齊藤幸歩

私は旅人。流れる時空と移ろいゆく人々の心を流浪する。私は旅人。動かぬ旅人。この広島の片隅で—さわさわ、ざわざわ、これが私の息吹。生き続けた私の息吹。

高1 目黒美貴

見て、触れて、感じてください。人とともに生きてきたわたしを。わたしはここにいます。

高3 沖野加奈

妹を焼かないで。娘を泣かせないで。孫を幸せにしてください。

中2 大内由紀子

色々なものを見てきた人々が苦しみ、悲しみ、泣く姿も喜び、楽しみ、笑う姿も。あの日の強い光 強い風 絶対に忘れない私が立つ景色は変わり果てた。でも、私の人生はそれで終わりではなかった。人は立ち上がり、路面電車が走った。お母さんと手をつなぎ、遊ぶ子供、近くにあるベンチで昼寝をする人。たくさんの景色を見ている。そして私も青い葉を広げ、大きな実をつけ、新芽をつけた。私は今とても幸せだ。

高1 伊藤淳仁

何があろうとも私は生きる記憶の中であなたの中でみんなの中でずっとずっと生きていくこれからもずっと生きていく

アート展示鑑賞

希望のエネルギーもらう



ジュニアライターに被爆樹木の

旧日銀広島支店では、キャン・ハーシーさんとピーター・ビルさんが被爆樹木をテーマに制作した映像や版画が展示されました。

東京在住のアーティスト藤元明さん（43）は空間を大きく使って銀色のテープを張り巡らした「幻爆」という作品や折り鶴再生紙を使ったアートを展示しました。

「平和」と一口に言っても表現方法の多様さに驚くとともに、言葉で説明しなくても平和や希望を強く訴えるエネルギーが伝わってきました。（高1 目黒美貴）

平和カフェで一緒に語ろう

27日 広島

次回の「ピース・シーズ」は広島市中区の平和カフェ「ハチドリ」を取り上げる予定です。その一環として平和イベントを企画しました。27日午後3時〜4時半に開く「Talk withジュニアライター10代のヒロシマ記者と話をしよう」です。

ふだん私たちが取材で感じていることなどを本音で語ります。原爆や平和について一緒に考えませんか。参加を希望する人は24日正午までに名前住所、電話番号、年齢を書いてメールで peace@hiroshima-np.co.jp に送ってください。問い合わせは 082-23662801（平日午前10時〜午後6時）。定員は約20人。1ドリンク（500円）の注文が必要です。希望者が多い場合は抽選になります。お待ちしています。（高2 藤井志穂）